



# **Snapshot**からファイルをリストアする ONTAP 9

NetApp  
February 12, 2026

# 目次

Snapshotからファイルをリストアする .....	1
NFSまたはSMBクライアント上のONTAPスナップショットからファイルを復元する .....	1
ONTAPスナップショット ディレクトリへのNFSおよびSMBクライアント .....	1
アクセスを有効または無効にする	
ボリュームを編集してSnapshotディレクトリへのクライアント アクセスを有効または無効にする .....	2
共有を編集してSnapshotディレクトリへのクライアントアクセスを有効または無効にする .....	4
ONTAPスナップショットから単一のファイルを復元する .....	4
ONTAPスナップショットからファイルの一部を復元する .....	5
ONTAPスナップショットからボリュームの内容を復元する .....	6

# Snapshotからファイルをリストアする

## NFSまたはSMBクライアント上のONTAPスナップショットからファイルを復元する

NFSまたはSMBクライアント上のユーザーは、ストレージシステム管理者の介入なしに、スナップショットから直接ファイルをリストアできます。

ファイルシステム内のすべてのディレクトリには、`.snapshot`という名前のサブディレクトリが含まれており、NFSおよびSMBユーザーがアクセスできます。`.snapshot`サブディレクトリには、ボリュームのSnapshotに対応するサブディレクトリが含まれています。

```
$ ls .snapshot
daily.2017-05-14_0013/          hourly.2017-05-15_1106/
daily.2017-05-15_0012/          hourly.2017-05-15_1206/
hourly.2017-05-15_1006/         hourly.2017-05-15_1306/
```

各サブディレクトリには、スナップショットが参照するファイルが含まれています。ユーザーが誤ってファイルを削除または上書きした場合、スナップショットサブディレクトリから読み書き可能なディレクトリにファイルをコピーすることで、親の読み書き可能なディレクトリにファイルを復元できます：

```
$ ls my.txt
ls: my.txt: No such file or directory
$ ls .snapshot
daily.2017-05-14_0013/          hourly.2017-05-15_1106/
daily.2017-05-15_0012/          hourly.2017-05-15_1206/
hourly.2017-05-15_1006/         hourly.2017-05-15_1306/
$ ls .snapshot/hourly.2017-05-15_1306/my.txt
my.txt
$ cp .snapshot/hourly.2017-05-15_1306/my.txt .
$ ls my.txt
my.txt
```

## ONTAPスナップショットディレクトリへのNFSおよびSMBクライアントアクセスを有効または無効にする

ONTAP CLI `'-snapdir-access`オプションを使用して、`volume modify`コマンドでスナップショットディレクトリへのアクセスを有効または無効にすることができます。また、ONTAP 9.10.1以降では、System Managerを使用して、クライアントシステムによるボリューム上のスナップショットディレクトリへのアクセスを有効または無効にすることができます。アクセスを有効にすると、スナップショットディレクトリがクライアントに表示されるようになり、Windowsクライアントはスナップショットディレクトリ

にドライブをマッピングして、その内容を表示およびアクセスできるようになります。その後、NFSクライアントとSMBクライアントは、スナップショットからファイルまたはLUNをリストアできます。

ボリューム設定を編集するか、ボリュームの共有設定を編集することで、ボリュームのスナップショット ディレクトリへのアクセスを有効または無効にすることができます。

ボリュームを編集して**Snapshot**ディレクトリへのクライアント アクセスを有効または無効にする

手順

ONTAP System ManagerまたはONTAP CLIを使用して、クライアントのスナップショット ディレクトリへのアクセスを有効または無効にすることができます。ボリューム上のスナップショット ディレクトリは、デフォルトでクライアントからアクセス可能です。

## System Manager

1. \*[ストレージ] > [ボリューム]\*をクリックします。
2. 表示または非表示にするスナップショット ディレクトリを含むボリュームを選択します。
3. をクリックして\*編集\*を選択します。
4. **Snapshot (Local) Settings** セクションで、**Show the Snapshot directory to clients** を選択または選択解除します。
5. \*保存\*をクリックします。

## CLI

1. スナップショット ディレクトリのアクセス ステータスを確認します：

```
volume show -vserver <SVM_name> -volume <vol_name> -fields snapdir-access
```

例：

```
clus1::> volume show -vserver vs0 -volume vol1 -fields snapdir-access
vserver volume snapdir-access
-----
vs0      vol1    false
```

`volume show` の詳細については、link:<https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/volume-show.html> ["ONTAPコマンド リファレンス" ^]をご覧ください。

2. Snapshot ディレクトリ アクセスを有効または無効にします：

```
volume modify -vserver <SVM_name> -volume <vol_name> -snapdir-access <true|false>
```

次の例では、vol1 のスナップショット ディレクトリ アクセスを有効にします：

```
clus1::> volume modify -vserver vs0 -volume vol1 -snapdir-access true
Volume modify successful on volume vol1 of Vserver vs0.
```

`volume modify`の詳細については、link:<https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/volume-modify.html>["ONTAPコマンド リファレンス"]をご覧ください。

共有を編集してSnapshotディレクトリへのクライアントアクセスを有効または無効にする

ボリューム上のスナップショットディレクトリは、デフォルトでクライアントからアクセスできます。

手順

1. \*Storage > Shares\*をクリックします。
2. 表示または非表示にするスナップショットディレクトリを含むボリュームを選択します。
3. をクリックして\*編集\*を選択します。
4. \*共有プロパティ\*セクションで、\*クライアントに Snapshot ディレクトリへのアクセスを許可する\*を選択または選択解除します。
5. \*保存\*をクリックします。

## ONTAPスナップショットから単一のファイルを復元する

`volume snapshot restore-file`コマンドを使用して、Snapshotから単一のファイルまたはLUNを復元できます。既存のファイルを置き換えたくない場合は、親の読み取り / 書き込みボリューム内の別の場所にファイルを復元できます。

タスク概要

既存のLUNを復元する場合は、LUNクローンが作成され、スナップショット形式でバックアップされます。復元操作中は、LUNの読み取りと書き込みが可能です。

デフォルトでは、ストリームを含むファイルがリストアされます。

手順

1. ボリューム内のスナップショットを一覧表示します：

```
volume snapshot show -vserver SVM -volume volume
```

`volume snapshot show`の詳細については、link:<https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/volume-snapshot-show.html>["ONTAPコマンド リファレンス"]を参照してください。

次の例は、`vol1`のスナップショットを示しています：

```
clus1::> volume snapshot show -vserver vs1 -volume vol1
```

Vserver	Volume	Snapshot	State	Size	Total%	Used%
vs1	vol1	hourly.2013-01-25_0005	valid	224KB	0%	0%
		daily.2013-01-25_0010	valid	92KB	0%	0%
		hourly.2013-01-25_0105	valid	228KB	0%	0%
		hourly.2013-01-25_0205	valid	236KB	0%	0%
		hourly.2013-01-25_0305	valid	244KB	0%	0%
		hourly.2013-01-25_0405	valid	244KB	0%	0%
		hourly.2013-01-25_0505	valid	244KB	0%	0%

```
7 entries were displayed.
```

## 2. スナップショットからファイルを復元します：

```
volume snapshot restore-file -vserver SVM -volume volume -snapshot snapshot  
-path file_path -restore-path destination_path
```

`volume snapshot restore-file`  
の詳細については、[link:https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/volume-snapshot-restore-file.html](https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/volume-snapshot-restore-file.html)["ONTAPコマンド リファレンス"]を参照してください。

次の例では、ファイル `myfile.txt` を復元します：

```
cluster1::> volume snapshot restore-file -vserver vs0 -volume vol1  
-snapshot daily.2013-01-25_0010 -path /myfile.txt
```

## ONTAPスナップショットからファイルの一部を復元する

この `volume snapshot partial-restore-file` コマンドを使用すると、データの開始バイトオフセットとバイト数がわかっている場合、スナップショットからLUN、NFSまたはSMBコンテナファイルに一定範囲のデータをリストアできます。このコマンドは、同じLUNに複数のデータベースを保存しているホスト上のデータベースの1つをリストアする場合に使用できます。

ONTAP 9.12.1以降では、SnapMirrorアクティブ同期を使用するボリュームに対して部分的な復元が可能です。

### 手順

#### 1. ボリューム内のスナップショットを一覧表示します：

```
volume snapshot show -vserver SVM -volume volume
```

`volume snapshot show` の詳細については、link:<https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/volume-snapshot-show.html> ["ONTAPコマンド リファレンス"]を参照してください。

次の例は、`vol1`のスナップショットを示しています：

```
clus1::> volume snapshot show -vserver vs1 -volume vol1

Vserver Volume Snapshot State Size Total% Used%
----- ----- -----
vs1     vol1   hourly.2013-01-25_0005 valid 224KB 0% 0%
          daily.2013-01-25_0010  valid 92KB 0% 0%
          hourly.2013-01-25_0105 valid 228KB 0% 0%
          hourly.2013-01-25_0205 valid 236KB 0% 0%
          hourly.2013-01-25_0305 valid 244KB 0% 0%
          hourly.2013-01-25_0405 valid 244KB 0% 0%
          hourly.2013-01-25_0505 valid 244KB 0% 0%

7 entries were displayed.
```

## 2. スナップショットからファイルの一部を復元します：

```
volume snapshot partial-restore-file -vserver SVM -volume volume -snapshot
snapshot -path file_path -start-byte starting_byte -byte-count byte_count
```

開始バイトオフセットとバイト数は4,096の倍数である必要があります。

次の例では、ファイル `myfile.txt` の最初の 4,096 バイトを復元します：

```
cluster1::> volume snapshot partial-restore-file -vserver vs0 -volume
vol1 -snapshot daily.2013-01-25_0010 -path /myfile.txt -start-byte 0
-byte-count 4096
```

# ONTAPスナップショットからボリュームの内容を復元する

スナップショットから復元することで、ボリュームを以前の時点に復元できます。System Managerまたは`volume snapshot restore`コマンドを使用して、スナップショットからボリュームの内容を復元できます。["ONTAPコマンド リファレンス"](#)の`volume snapshot restore`の詳細をご覧ください。

## タスク概要

ボリュームにSnapMirror関係が設定されている場合は、Snapshotからリストアしたあと、すぐにボリュームのすべてのミラー コピーを手動でレプリケートします。レプリケートしないと、ミラーコピーを使用できな

くなり、削除および再作成が必要になります。

## 手順

System Manager またはONTAP CLIを使用して、以前のSnapshotから復元できます。

### System Manager

- \*[ストレージ]\*をクリックし、ボリュームを選択します。
- \*Snapshotコピー\*で、復元するSnapshotの横にある⋮をクリックし、\*復元\*を選択します。

### CLI

- ボリューム内のスナップショットを一覧表示します：

```
volume snapshot show -vserver <SVM> -volume <volume>
```

次の例は、`vol1`のスナップショットを示しています：

```
clus1::> volume snapshot show -vserver vs1 -volume vol1

Vserver Volume Snapshot State Size Total% Used%
----- ----- -----
vs1     vol1   hourly.2013-01-25_0005 valid 224KB 0% 0%
          daily.2013-01-25_0010  valid 92KB 0% 0%
          hourly.2013-01-25_0105 valid 228KB 0% 0%
          hourly.2013-01-25_0205 valid 236KB 0% 0%
          hourly.2013-01-25_0305 valid 244KB 0% 0%
          hourly.2013-01-25_0405 valid 244KB 0% 0%
          hourly.2013-01-25_0505 valid 244KB 0% 0%

7 entries were displayed.
```

- スナップショットからボリュームの内容を復元します：

```
volume snapshot restore -vserver <SVM> -volume <volume> -snapshot
<snapshot>
```

次の例では、`vol1`の内容を復元します：

```
cluster1::> volume snapshot restore -vserver vs0 -volume vol1
-snapshot daily.2013-01-25_0010
```

## 著作権に関する情報

Copyright © 2026 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を隨時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5225.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用権を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用権については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

## 商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。